

幻想黒龍伝 ～無数存
在する一つの世界～

霧島 蓮

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これはかつて幻想郷を救った青年の無数に存在する一つの世界の物語

今までの設定も白紙に戻しじつくりまったりとギャグ寄りにすすめていきたいと思っっています、一年過ぎて培った語彙力をフル活用してがんばっていくので暇つぶし程度に読んでもらえると嬉しいです

目次

第0話	始まりの世界	1
第1話	幻想に降り立ちし少年	5
第2話	金色の魔法使い	9
第3話	東の間の平穏	13
第4話	魔法とのふれあい	17
第5話	悪魔の館	20
第5話	降臨	25
第7話	喧騒の後の目覚め	31

第0話 始まりの世界

??) あははは〜！お母さん早く早く〜！

??) そんなに慌てなくてもお母さんはどこにも行きませんからね〜♪

??) えへへ〜♪あ、そうだ！お母さんにプレゼントあげる！

(たくさんの花を使った花冠を作り頭に乘せて)

??) あらあら…♪かわいいことしてくれるじゃない…ありがとね…♪ (優しく抱きしめ)

(そこから声が小さくなり夢から覚めていき)

(カカツ…カカツカカツ…とチヨークの音が響き)

教師) さてと…この問題を…って…アイツまた寝てるのか…おーい、起きろ…起きろ…おーい！

??) (⊗ ω ⊗) スヤア…

教師) (# ^ ω ^) ビキビキ…ふんっ！ (手に持った黒板消しとチヨークを投げ)

??) すや…

(ガッツと黒板消しが当たり)

??) いたっ…んえ…? 何があつ…へブチ!

(更にチョークがゴツつと当たり砕けてガターン!と後ろに倒れ込み頭をぶつけ)

??) い…痛すぎる…

(クスクスと周りからは笑い声上がり)

教師) つたく…ほら、お前この問題を解いてみる、当たってないのはお前だけなんだから

??) センサー…起こすにもやり方つてもんがあるでしょうが…

??) いつもお前が寝てて何を試したって起きないからだろうが…

??) だってセンサーの授業たいく…

教師) なにか言つたか? (既にもう一セット構えていて)

??) イ…イエ…ナンデモアリマセン…

教師) よろしい…ほら、さっさと解け、授業おわりも近いんだから

??) はいはい(黒板消しに向かいカツカツとチョークで答えを書いていき) 終わりましたよ、これでどうですか?

教師) おく、お前も寝てる割には解けるんだな…(そう言つた瞬間に下校のチャイムが鳴り)

教師) ほらーこのままSHRやるぞー、と言つても明日も特にないがな…はい、とい

うわけでかいさーん！さっさと下校しろよー

クラス一同）ありがとうございましたー、さよならー！

??）さてと…今日は何も無いから家でゴロゴロするか！

クラスメイト）おーい！蓮ー、今日ゲーセン行かないか？

蓮）えー…どうしよっかな…（口はそう言いながら顔はものすごいめんどくさそうな顔をしていた）

クラスメイト）おいおい…（笑）顔と声が一致してないぞ

蓮）あ、バレたか（笑）そんなわけでまたなく！

そう言いながら駆け足で靴を履き替え学校から出ていき）

蓮）危ない危ない…今日はポテチ食べながらゴロゴロする予定があるからな…にして…も…次のバイトはいつ入れるかな…それに…あのクソ教師頭に散々ぶつけやがって…タンコブ出来たらどうすんだっつの…

（ぶつぶつと呟きながら家に帰る道を歩いている）

蓮）さてと…コンビニでなんのポテチを買うか…ん？なんだ？あれ…

（道の向こう側に何かぱかっとならぬ口が空いた隙間が空いている）

蓮）ん…？（霧島蓮、exeは動作を停止しました）

蓮）（。D）ハッ！真面目になんだあれ…（ウズウズと好奇心を刺激されていて）

ちよつとだけなら大丈夫だよな…

(恐る恐る近づこうとするとはいきなり車が猛スピードで走ってきて)

蓮) ほああ?!ちよつ…あぶあぶあぶ! (急いで走り抜け)

蓮) はあ…はあ…あぶないところだった…ところで…あれつて…ん…?

(隙間の真上に走り抜けてしまっていて)

蓮) あつ…\ (^o^)/ オワタどわあああああ?!?!

(そのまま隙間に落ちていき)

第一話 幻想に降り立ちし少年

蓮) ほあああああ?!?!

(物凄い勢いで地面に背中から落ちていきポトツと後頭部をぶつけて)

蓮) アンパン?!ぐふっ…止まるんじや…ねえぞ…(キーボーウノーハナーツナーイ
ダーキズーナラー)

その頃上空では物凄い密度の弾幕が飛び交っていて)

??) うおつと…!相変わらず霊夢の弾幕は激しすぎるぜ…危なく一発もらうとこだった…

霊夢) ふっふっふ…♪そのままやられてくれてよかったのよ?魔理沙

魔理沙) そんなわけいくかよ、私だって勝たなきゃいけないんだぜ!くらえ…マス
タースパーク!

(とてつもなく太いビームを発射して)

霊夢) ふっふっふ…そんなのには食らわれないわよ!(余裕そうで軽々と躲して)

蓮) いったて…頭割れるかと思った…ん…?空が明るい…なに g…(顔面蒼白になりながらマスパを見つめており動作を停止して)

魔理沙) くっそく…避けられたか…それならこれはどーだ! ブレイジングスター!
(2発目のスペカもフルパワーで発射して)

霊夢) どこ見て撃ってるのかしら…ウププ…(とてつもなく煽りながら躲して)

蓮) k u a p u s e h u z i k o r u p u くくく?!?! (顔がああ…終わった…と安らかな顔をしていて当たる直前にどこからともなくシールドが発動して)

蓮) ほえ…? 生きてる…? 何が起きて…

(グユイグユイ…コオオオオオオとシールドで防がれたスペカが一点に集中して超高威力のレーザーに変化していき)

蓮) ほえ?! なになに?! 一体何の音してるの?!

(あたふたしてる間にとんでもないスピードでレーザーが発射されて霊夢を掠め魔理沙に飛んでいき)

霊夢) へ?! いたあつ?! な…なにがとんできて…(。 ㇿ) ハッ!

魔理沙避けて!

魔理沙) 霊夢には負けな…ん? 避けろつてギヤアアアアア?! ピチューン(余裕で魔理沙を貫通して空高くまで飛んでいき魔理沙の残機を持っていき)

蓮) ……(あんぐりと口を開け) や…やちまつたく…! ほら…あのなんか巫女さんみたいな人がめっちゃこっち見てるよ…! なんかすごい顔しながらこっち見てるよ

…?!これ…俺も殺されるやつじゃないの…（姿は服や髪の毛、目の色がサファイアみたいなキレイな蒼色をしていて）

（霊夢） ……（。ム。） ハッ！ちよつと！その人！

（蓮） ひい?!（逃げ出し）

（霊夢） あゝちよつと…待ちなさいよ！（空を飛んで目の前に立ち塞がり）

（蓮） アンタ…何者なの…？あの魔理沙を一撃で沈めるなんて…只者じゃないわ…

（蓮） アー…イヤ…ソノ…アハハ…終わつたと思つたらいきなりなんか出てきてビームが飛んでいったと言いますか…

（霊夢） それで魔理沙が沈むなんて…とてつもないわ…

（??） あら？霊夢…その子は？（金色の髪の毛の女性が隙間から出てきて）

（霊夢） あ…紫…私達が弾幕勝負したら魔理沙のスペカがこの子の方に飛んでいったらしいんだけど今度はそつちからビームが飛んできて魔理沙に直撃して魔理沙がびちゆつたのよ…

（紫） ええ…珍しいこともあるものね…ん…？ちよつと…その人こつち来てくれる…？

（蓮） え？俺のこと？

（紫） そうそう、貴方のことよ（チョイチョイと優しく手招きして）

（蓮） い…一応俺には蓮って名前があるんだけどなあ…（近寄り目の前にまで行き）

紫) ふむ…ん…?!あゝ…そういうことね…ありがとう、もう大丈夫よ

蓮) ほええ…それならいいんだけども…(ゆっくり離れて)

紫) さてと…ここは魔法の森だったわね…この近くに金髪の人形や魔法を扱う妖怪がいるから…そこに行つて少し見てもらうといいわ…

蓮) ほえ？妖怪…？それって迷信じゃないの…？

紫) 迷信？ああ、外の世界だと妖怪は迷信なのよね…残念だけど、ここはあなたの居た世界じゃないからね…基本ここはなんでもありなのよ…ほら、さつさと行つてきなさい

蓮) ほへえ…わかつた…行つてくる…(スタスタと歩いていき)

霊夢) 紫…？あんた…何か分かつたの…？彼について…

紫) ん…ええ…ちよつとね…

霊夢) 私にも教えなさいよね…

紫) しつつかたないわね…いい…よく聞くのよ…？彼は…

『To be continued…』

第2話 金色の魔法使い

蓮) うわあ…この森深いなあ…気を抜いたら迷いそうだ…

(などと呟きながらガサガサと森を抜けると大きな家が見えてきて)

蓮) お…さっきの人あそこに住んでるのかな…たのもく!

その頃霊夢と紫は…)

霊夢) はあ?! 彼が絶滅したはずの龍族?! しかも純血?!

紫) しっ…声が大きいわよ…

霊夢) だってそりや声も大きくなるわよ…ドラゴンなんてお伽話とか絵本に出てくる存在しか聞いたことないわよ…

紫) 私もあの魔力の異質な感じを感じ取って目の奥を見たケド…明らかに獣の目の奥と龍族にしかない斑紋も確認出来たし…あれは間違いなく本物よ…

霊夢) まさか…あなたが連れてきたの?

紫) まさか…私はあんな存在がいるだなんて知りもしなかったわ…

霊夢) ということはあんた前に龍を見たことあるのね…?

紫) ええ…あれはほんとにずっと昔のことよ…そいつらと彼を比べても…彼のほうが

莫大で…そしてとんでもない才能を秘めてるわ…だから人形と魔法が使えるアリスのところに向かわせたのよ…

（霊夢）なるほどね…それなら…アリスを信じてみましょ…

一方その頃）

蓮）おっじやまーしまー…

（ガチャツとドアを開けた瞬間目に入ってきたのはアリスが暴漢に能力を封じて襲われかけているところで思いっきりフリーズして）

蓮）あつ…あお邪魔しました…（そそくさと扉を閉めようと）

暴漢）んなつ…んだあのガキ…あの現場を見られたら生かしちやおけねえな…

（バンと扉を勢いよく開けて）

蓮）ほえ?!

暴漢）おうおう…よくも俺様が楽しみにしてた現場を覗いてくれたなテメエ…（ビキビキと頭に青筋が浮かんでいて）

アリス）だめ！やめなさい！襲うなら私にしなさい！彼は悪くないわ！（家から出てきて蓮の前に立ち手を広げ）

蓮）わー…前に見た昼ドラみたいな展開になってる…（巻き込まれているとは思わず上の空の状態で）

暴漢）話聞いてんのかこのクソガキい！（思いつきりダツシユしながら突進してきて）
蓮）んお…？なんかめんどそうな展開に…こう言うのって迎撃したほうがいいよなあ
：（ザツザツと歩きながらアリスの前に出て）

アリス）だめ！私の後ろに隠れて！

蓮）そーんなこと言われても売られた喧嘩は買わないわけには行かないよなあ…（アリスの静止も聞かずに前に出てくると男がほぼ目の前に迫ってきていて）これでも…喧嘩は昔から得意な方なんでな…（妖しくニツコリと笑い握り拳を作ると今まで体の内側に溢れていた魔力が全身に行き渡り）

暴漢）しねえ！（そこから拳を突き出し顔面に当てようとした瞬間に蓮の拳とぶつかり）

アリス）ああ…！危ない！

（バチインと激しい音が森に響き渡りアリスが目を瞑りそつと目を開けると暴漢が吹っ飛んで木にめり込んでいて）

アリス）え…？

蓮）おお…なんだか体の内側から凄い力が満ち溢れてくる…（ダツとダツシユをして男の腹にドスンと腹のそこに響くような重たい音のパンチをお見舞いすると男は崩れ落ちて）

アリス) 凄い…貴方は…何者なの…?

蓮) ん?俺のこと?俺は…そうだなあ…なんかどっかわからないところから出てきた金髪の女の人からこの建物のところに行ったら役に立つことを教えてもらえるって言われたから来たんだよね…ま、それでも助けられてよかった!

(ニカツと笑っている)後ろで男が立ち上がりこちらに走ってきてパンチをお見舞いしよう)

アリス) あぶない!

蓮)?!(急いで後ろを振り返り)しまっ…

(そう呟いて当たるのを覚悟した瞬間に蓮の指から高圧電流が流れ暴漢にヒットし気絶して)

蓮) な…何だったんだ…今の…まあ、それはおいといて…これからよろしくね!

(もう一度ニカツと笑うと太陽が背面に来てアリスからは後光が指してるように見えたようだ…)

【T o b e c o n t i n u e d . . .】

第3話 束の間の平穩

??) えーと…君が紫から紹介された人でいいのよね…

蓮) あ…はい…俺はきりひまれんといいまふ…(ガブツと舌を噛み) イデデデデデ…

??) 大丈夫? 私の自己紹介もしないとね…私はアリスマーガトロイドよ、よろしくね、

蓮君

蓮) あ…アリスマーガトロイドさんよろしくお願いします…

アリス) アリスでいいわよ…というか…さつきから痺れてそうね…さつきの指から雷が出たからかしら…

蓮) た…多分そうみたいでふ(ガブツ) イデデデデデ…

アリス) 因みに…悪いけど…その雷って今も出るの?

蓮) どうでしょう…さつきは咄嗟のことだったので…

アリス) そうねえ…それなら電気よ、出ると頭の中で念じてみて?

蓮) わ…わかりました…(電気よ、出ると念じてみると指から稲妻が走り)

アリス) わっ…でたでた…凄いわね…素質あるわよ、それで…カラダはどう?

蓮) アベベベベベ阿部寛…(感電して地面にポテツと倒れ込みビリビリと痺れている)

て)

アリス) あわわ…も…もうやめていいから…!

蓮) ……(ピクピクと電気が止まったあともずっと痺れていて)

アリス) ちよつ…ちよつと待つてね…今痺れを止めるポーシオン持つてくるから…

!(バタバタと家の中に走つていきポーシオンをとつてきて) ほら…これ飲みなさい…

(ポーシオンを垂らし飲ませた数分後には復活して)

蓮) いやはや…ほんとに酷い目にあつた…(ポリポリと頭をかいて)

アリス) それはほんとにごめんつて…ちよつと確認したかつたからついつい…それで

…紫が私にパスするつてことはよつほどよね…まあ…そのことも薄々気づいてるけど

…

蓮) んえ?俺がパスされた理由つて何?

アリス) それはね…君が持つてる魔力がとてつもなく多くて質が高いから腐らせるの

はもつたないつてことで連れてきたのかもね…多分それだけじゃないと思うけど…

蓮) おお…俺も魔法使いになれるのか…!

アリス) とりあえず適正検査するから私の家の中に入つて入つて、歓迎するわよ

蓮) お…お邪魔します…(縮こまりながら家に入つて椅子に座り)

アリス) はい、いらつしやいね、とりあえずお茶持つてくるから待つてね(台所に

向かい紅茶を入れて戻ってきて)

蓮) あ、ご丁寧にどうも…

アリス) さてと…まずは詳しいこと聞かせてもらえるかしら？

蓮) あ、わかりました…(現代にいたことから車にひかれかけて逃げたときに幻想入りしたことを説明して)

アリス) ふーむ…なるほどね…その様子だと住む家もないんでしょ？

蓮) あ…はい、今日ここに来たばかりなので…

アリス) なるほどね…それならここに住むといいわ、部屋もまだまだ空いてるしね

蓮) え…いいんですか…?こんな素性も分からないのを泊めても

アリス) 紫から送られてきたつてもあるし何より私を助けてくれた人が襲うとは考えられないしね

蓮) な…なるほど…

アリス) とりあえず…この水晶に手を触れて見させてくれる？

蓮) わかりました…(そつと水晶に手を触れさせてみると水晶がいろんな色に光りだして)

アリス) へえ…珍しいわ…貴方もこんなに使えるのね…こんなに使えるなら護身には完璧ね…

蓮) おお〜！小さい頃本で魔法を使えるのをたくさん読んでたのがまさかほんとなるときは…

アリス) さて…今わかったのは魔力を使ったときに魔法で使える属性の適正診断なんだけど、あとは能力の診断が残ってるわね…

蓮) 能力もあるのか…

アリス) 能力を調べるには魔法陣を描くのだけど…ここに基盤は書いてあるから…
(眩きながらチョークでカリカリと残りを書き込んで)

蓮) 魔法とかすごい難しいのね…(それをお茶をすすりながら見ている)

アリス) はい、これで出来たわよ、円の中心に立って足元に力を込めれば分かるはずよ

蓮) あ…はあい…(スタスタと歩いて中心についてグツと力を込め始めると辺り一体がズシツと重くなり鎖が地面から触手のようにワラワラと生え、全身がボールのようなシールドに包まれて)

アリス) うわあ…すごいグロテスク…と…とりあえずこれが貴方の能力ね…しかも3つもあるなんて…これはかなり強い人の部類に入るわね…

[T O b e c o n t i n u e d]

第4話 魔法とのふれあい

アリス) さ…ここがあなたのお部屋よ、しばらく使ってなかったけどこの本とか自由に見たりしていいからね、これからはのんびり過ごしていいのよ、もうそろそろ夜になるし…おやすみなさいね？

蓮) ん…ありがとう…おやすみなさい…

(キィイ…と扉を閉めて)

蓮) アリスさんの家いいにおいするな…さて…本を読んで勉強してみよ…(ゴソゴソと本棚の奥に入っている一冊の古い本を取り出し) え…ええ…読んでみたけど魔法の本難しい…これはしばらく読むことになりそう…(ゴソゴソと本を読んではまだ別の本を取り出し読み続けていると夜も更けていき)

アリス) ん…ふああ…着替えて起こしに行かないと…きつと疲れてるでしょうから…(服を着替えて起こしに行き扉をノックして)

アリス) (コンコン) 蓮君…? 起きてる…? これから朝ごはん作るから待っててね？

蓮) あっ、おはようございます！この本を読むのが楽しすぎてずっと読んじやってまして…

アリス) すごい勉強心ね：私も魔法が使えない頃は貴方みたいに勉強してたっけ：それはおいといて：ご飯作るから待っててね？ご飯が終わったらまたあなたのこと聞かせてね！(そう言いながらパタパタと足音を立てながら下の階に消えていき)

蓮) アリスさんのご飯楽しみだなあ：(そんなことを呟きながらまた本に没頭していき)

(数分後：)

アリス) 蓮君！ご飯できたわよ！

蓮) はい！今行きます！(階段を降りてリビングに向かい)

アリス) はい、今日は目玉焼きを作ってみたわよ、お口に合うといいけど：

蓮) いただきます：(モグモグ)ん！これめっちゃおいしいです！

アリス) ふふ：喜んでもらえてよかったわ：どれどれ：(モグモグ)ん、たしかにすごい美味しいわね：♪

(二人とも数分で食べ終えて)

アリス) ごちそうさまでした：さ、あなたのこと聞かせてもらえます？

蓮) ん？記憶とかのことは全部話したと思いますけども：

アリス) 何か記憶から役に立てる能力とかなーつと思ってるね、なにかあったら自分を守る手段が増えるわけだしね？

蓮) ふーむ…：なにかあったかな… (うーんうーんと唸り) あっ！ そういえば…：なんだか鍛冶とか錬金術とかがほんの少しうつすらと残ってます…

アリス) ふむふむ…：その2つなら自分で武器も自給自足できそうね…：でも…：なんでその2つなのかしら…

蓮) さあ…：それでもだいぶらくになるとおもいますけどね…

アリス) そうねえ…：さ、今日はあとは魔法の練習とかにしましょうね… (カチャカチャとお皿を運び洗い始めて)

蓮) さ…：俺は雷魔法とかを出して痺れないようにしなきゃな…

【T o b e c o n t i n u e d】

第5話 悪魔の館

蓮とアリスが出会ってから数ヶ月後…)

アリス) 蓮君いくわよ！

蓮) よっしゃばつちこーい！

(魔法を唱えながらアリスの上海人形が槍を持って迫ってきて)

蓮) せー…のっ！ (攻撃をする瞬間にキンツとバリアを張って攻撃を防ぎ)

アリス) 大分魔力の使い方にも慣れてきたみたいね、でも…魔法は負けないわよ！ (ゴワツと強い炎の魔法を放って)

蓮) おわつつ?! あつつ?! あつつ! (魔法でふせげてはいるものの温度までは防げておらず)

アリス) ふっふ♪それじゃあ勝てないわよ！

蓮) ぐぬぬぬ…それなら俺だって… (バリアを張りながら手に雷の力を込め)

アリス) 上海! (糸を操り手元に引き戻し)

蓮) せーのっ! (手に雷を集中させトンツと飛び上がり空から雷砲を撃ちだして)

アリス) へえ、そんなふうな使い方もあるのね… (すっかり感心しながら前にバリア

を貼って防ごうと)

蓮) アリスも魔法使えるからそれは想定済だよっ! (落とす途中に空気中の水分から氷を作り出し屈折の効果を発動させてカクンカクンと軌道を曲げて)

アリス) 嘘っ:そこまでは手が回らな: (バリアを張ろうとしてる間に雷がアリスに直撃して) あああああ:しびれるるる: (ピリピリと痺れて)

蓮) ふう:これはこれで疲れるね: (シユン:と着地して雷状態を解いて)

アリス) いやあ、随分力の使い方がうまくなつたわね、これなら並の妖怪には負けなさそうね♪ (満足そうに頷きながら) それじゃあ、森の外にお出かけしてみる?

蓮) する! 久しぶりに探検したい!

アリス) それじゃあ:そうね:紅魔館に行ってみましょうか

蓮) 紅魔館?そこはどんな人たちが住んでるの?

アリス) それはね、行ってみたらわかるわ♪

蓮) へえ:アリスがそうやっていうのは珍しいね:

アリス) まあそうね、それでも歓迎してくれると思うわよ?

蓮) それならすごい楽しみだね:

(そうやって二人でおしゃべりをしながら紅魔館の門について)

アリス) さ、ついたわよ

蓮) うわあ…おつきい家だなあ…ということはお金持ちが住んでるのかな…

アリス) そうね…お金持ち…お金持ち…お金持ち? お金持ち…うーん…まあいいわ…(門の前にはきれいな人が気持ち良さそうにうたた寝をしていて)

蓮) きれいな人が寝てるなあ…

アリス) また美鈴寝てる…咲夜に怒られても知らないわよ…(ちよつと呆れ気味で) まあおいておきましょ…さ、入るわよ(門を開けて中に入っていく)

蓮) あつ…ほつといいていいんだ…(アリスに続いて紅魔館の中に入って)

アリス) この中には強い人がたくさんいるのよ…♪メイドさんが来ると思うんだけど…咲夜…咲夜…? こないわね…

蓮) アリスなにしてるの…?

アリス) あつ…そーだ! 咲夜…! ここにレミアのパンツが落ちてるわよ…!

咲夜) なに?! お嬢様のパンツ?! どこどこ! (一瞬で現れ息を荒くして探し回して)

蓮) うわあ…アリスこんな人と友達なの…(ドン引き)

咲夜) ん? アリスじゃない…その子は誰? まさかアリスの子供?

アリス) ばつ…私の子供じゃないわよ…外の世界から来た人よ、紫から私のとこに送られてきたのよ?

咲夜) へえ…紫から送られてくるって珍しいわね…

蓮) さつきからおいてけぼりだなあ…

咲夜) あ、ごめんね？ 私の名前は十六夜咲夜、気軽に咲夜って呼んで頂戴、貴方の名前は？

蓮) お…俺は霧島蓮って言います…蓮って呼んでください…

咲夜) ええ、分かったわ…よろしくね？蓮

蓮) は…はい、よろしくお願いします…

咲夜) アリス？それで今日はどうしたの？

アリス) 今日は蓮の修行がある程度終わったから今日から自由に行動してみよかったです話になってね、それで霊夢や魔理沙とは知り合ってるからあとはこの人達と知りあえばいいかなって思ってたね…

咲夜) なるほどね、ところで…美鈴は大丈夫？ちゃんと起きてる？

蓮) あ…いや…それが…その…おもいつきり気持ち良さそうに寝てました…

咲夜) はあ…また寝てたのね…あとで起こして説教しなくちゃ…

??) 咲夜♪誰のパンツを探してるのかしら♪ (ニコニコ)

??) おねーさま、咲夜をいじめちゃだめだからね！

(バサツバサツと2つの羽ばたく音が響きながら影が降りてきて)

【T
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d
】

第5話 降臨

??) あらあら…アリスじゃないの、その子は貴方のお弟子さんかしら？（フワツと着地して）

アリス) 弟子…弟子…？弟子なのかしら…まあ、一応ね…紫に私のとこに行つてと言われた外から流れてきた人よ

??) アリスに弟子かあ…かっこよくていいな〜！

蓮) ほへえ…幼女二人が飛んでる…

??) よつ…幼女とは失礼ね！私はレディなのよ！それも500歳も生きてるあなたの大先輩なんだからね！それと、幼女って呼ぶのはやめなさいよ！私には偉大なこのレミリア・スカーレットという高貴で素晴らしい名前がついてるのよ！（プンプンと怒りながら近寄つてズビシツと蓮に指を指して）

??) 私はそのお姉さまの妹のフランドール・スカーレットだよ〜！お兄ちゃんよろしくね〜！（ニコニコしながら手を振っていて）

蓮) ほええ…こんな幼女が500歳だなんてたまげたなあ…妹ちゃんの方は何歳なの？

フラン) 私? 私は495歳だよ!

レミリア) あなた: いつまでも幼女幼女と失礼ね: ねえアリス: :こいつ懲らしめちゃだめかしら: :

アリス) あ: :あはは: :ま: :まあやりすぎない程度にお願いね: :?

蓮も自分の力の集大成で全力出してみなさい: :?

蓮) え: :ええ: :俺こんなに小さい人を傷つける趣味はないんだけどなあ: :ま、まあ全力を出してやってみるよ: :

レミリア) さてと: :はじめましょうか: :! フラン、あなたもやっていいわよ

フラン) わくわく! 私も頑張っちゃおうよ! (二人ともバサツと飛び上がり弾幕を構え)

蓮) なんてこうなるやら: : (体に電気を纏わせはじめ)

レミリア) せいっ! (序盤から激しく弾幕を打ち出し始め)

蓮) いきなりあぶない?! (ゴロゴロと転がりながら避け始め)

フラン) 私もやつちやうからねく! (ボンボンと逃げる先を爆発させはじめ)

蓮) 更に危なすぎるう?! (どこも間一髪の所でかわし続け)

アリス) すごいわねえ: :いつみてもあの二人の連携弾幕は恐ろしいわ: :

咲夜) そうですわねえ: :私でもあのお二人には手がつけられませんわ: : (二人してお茶をすすりながら見ていて)

蓮) 見てないで助けてよおろ!? (弾幕が迫ってきては雷玉で相殺し始め段々反撃も可能になって)

レミリア) そんなのじゃあ私達は止められないわよ! (グングニルを精製して近接戦を挑み)

フラン) それじゃあ私はおねえさまの援護する〜! (あたりを爆発させながらレーヴァテインを出して反対側から挟み込み)

蓮) ここは地獄か! (叫びながら必死に避け続けてはいるが体力の限界が近づいてきて動きが鈍くなり一瞬止まり)

レミリア) ここよ! (グングニルをぶん投げ思いつきり狙い)

蓮) やべっ…! (キンツとバリアを貼ってなんとか防ごうと)

フラン) ここだあ! (それに合わせ狙って爆発させて)

(バリエイイン…グシャツブチブチツと鈍い音が響き)

アリス) あ…ああ…

咲夜) 嘘…

蓮) グツ…ガアツ… (そこにはバリアが壊され右腕がグチャグチャに潰れ肩の少し先からなくなつて大量に出血していて)

ほ…本気を出さないと殺される…! (そう本能が命の危機を悟って走馬灯が出てき

て)

レミリア) まだまだいけるわね…フラン、もう一度よ!

フラン) わ…わかった! (もう一度構え)

蓮) どうしたもんか…っ?! ガツ…アツ…アツ…アツ…アアアア! (急に頭を抑えうめいていたが急激に咆え体の内から力が溢れ始め)

レミリア) 何が起きてるの…?

フラン) わたしもおんなのはじめてみた…

蓮) あ…ああ…あ…オオオオオオオオオオ! (からだに力を込めた直後黄色い柱に包まれ叫び続けるとバチバチツと紅魔館の電気が停電して窓ガラスも順々にバリンバリンと割れていき)

咲夜) ま…窓ガラスが…ほんとに何が起きてるの…?! アリスは見たコトある…?

アリス) ないわ…彼の怪我をしてるところは見たこともなかったし…

蓮) アアアアアア! (黄色い柱が紅魔館の屋根を突き抜けても強い電力があたりを支配し始めて)

霊夢) 何があったの! あんたたち大丈夫?! (隙間から紫と霊夢が飛び出てきて)

紫) これは…まさか… (黄色い柱をじっと見つめていて)

蓮) オオオオオオオ! (紫が見つめた直後バリバリツ! と大きな雷が落ち始めドゴオ

ン！と柱が割れると髪の毛が紅く魅魔の姿をした蓮が降臨して妖しく笑い）さあ…ここからは反撃の時間だ…！（ドンツと空を飛びレミリアに向かっていき）

レミリア）姿が変わったくらいじゃ負けないわよ！（グングニルを精製してブンと薙ぎ払おうと振り）

蓮）ふん…（鼻を鳴らしながら雷の剣を錬成してギインと受け止め重力魔法で吹き飛ばし）

レミリア）がっ…な…何が起きてこんないきようかおきてるの…?!

蓮）そこではばらく大人しくしてるといい…（氷塊を飛ばし羽を凍りつかせ壁に貼り付けて）さてと…あとはそっちだな…（フランの方に向かい）

フラン）おねえさまの敵は取るんだから！（レーヴァティンを振りかぶり斬りかかって）

蓮）やはり吸血鬼は強いんだな…（ボソツと言葉を漏らしながら受け止めしばらく切り合いを続け）

紫）ついに始まったのね…（ドオンと雷や爆発の流れ弾から霊夢達を守りつつ言葉を漏らし）

！
霊夢）紫…？始まったってどういうことよ…私たちにもわかるように説明しなさいよ

紫) 蓮はね…かつて幻想郷を支えていた2大勢力のドラゴンの子供なのよ…生まれながらにしながら親達の能力を受け継いでか魔力がとでも多かつたけど力を制御できないから私が封印をかけてたのだけど…彼はそれを本能の赴くままに破って少し本来の姿に戻ったってことなのよ…けど、あの姿に戻ったのは初めてでしょうし…見てればわかるわ…すぐに限界が来るもの…(そう言って二人の戦闘に目を戻し)

蓮) せいっ! (剣を振り抜いてかわされて追撃しようとした瞬間)

蓮) ゲホツ…カハツ…(手に血を吐き出して) 血…? (コプツと次の瞬間口から大量に吐血してその場に倒れ込み)

【T o b e c o n t i n u e d】

第7話 喧騒の後の目覚め

紫) 流石に持たなかったようね…強靱な体を持つ龍の子でも…(頬に手を付けながら
眩き)

アリス) 耐えられなかったって…?

紫) さっきの彼の変身のことよ…アリスだって彼が変身したのは初めて見たでしょ…
?

アリス) え…ええ…あんな姿になるのは初めてだけどあんなにそもそも怪我すること
なかったから…

紫) それなら当然ね…訛ってた体に急激な体の変化についていけないもの…今
はどこかに運ばれていったけど…これからはまだ変身することを想像して特訓しない
とだめそうね…(担がれて運ばれていく蓮を尻目に見ながらアリス達に向き治り)

アリス) わかったわ…というか私はそれよりも彼の腕とか体のことが心配なんだけど
…

紫) 大丈夫よ、ドラゴンって意外とかなり再生能力高いから腕は元に戻せるわ
アリス) それならよかったわ…

霊夢) 私だけさつきからついていけない…とりあえず今はあいつを退治する必要はないってことね…？

紫) ええ、今後も退治する必要もないだろうけどね…彼は今後は強大な戦力になるから大事にしておいたほうが良さそうよ…

霊夢) わ…わかつたわよ…

アリス) 私も今日は紅魔館に泊めてもらおうかしら…彼の体が心配なもの…

その頃蓮は)

蓮) すう…すう…

レミリア) よく寝てるわね…ほんと…羽を氷漬けにされた時はかなりヒヤツとしたけどそれでもまだまだ私には勝てないわね…♪

咲夜) お嬢様…寒いダジャレはいらないですよ…？

レミリア) え？どこがよ

咲夜) 氷とヒヤツとしたってところですよ…同じ氷で繋がるじゃないですか…

レミリア) あっ…ま、まあ私レベルにもなると意図しなくてもギャグを言えるほどの天才的な脳みそを持つてるのよ(カタカタと震えて)

咲夜) アツハイ…

蓮) ん…んう…ツクシツ…寒…ここ…どこだ…？

レミリア) あら、やっとお目覚め? 血を吐き出して倒れた割には遅かったわね

蓮) 俺は回復の早い吸血鬼とは違うんだよなあ:(力の増幅によつて姿が変わつた自分の腕を見つめ) さてと: 起き上がつてこの身体に慣れないとアリスを守れないからな
:(ぐつと握りこぶしを作り)

レミリア) あなたも大変なのね: ま、それでも私を幼女呼ばわりしたのは許さないけど:
ど:

蓮) ヘーヘー: 俺も何か遠距離みたいなの武器がほしいな: 日本にいたときに何があつたかな: : : : : あ、あれがあつたわ:

(ブツブツと呟き)

レミリア) 咲夜: : : こいつ大丈夫かしら: : : ブツブツ言つてるけど:

咲夜) ま: : : まあ彼にも考え事があるんですから: : : そこは気にしちやだめですよ:

[T o b e c o n t i n u e d]